

| | | | |
|--|-----------------------|-------------|------------------------------|
| 科目名 | ゼミナール | 英語科目名 | Seminar |
| 開講年度・学期 | 平成22年度・通年 | 対象学科・専攻・学年 | 専攻科複合工学専攻・電子制御工学コース・1年 |
| 授業形態 | 演習 | 必修 or 選択 | 必修 |
| 単位数 | 2単位 | 単位種類 | 学修単位(30+15)h |
| 担当教員 | 全教員 | 居室(もしくは所属) | 電子制御工学科棟・専攻科棟 |
| 電話 | 0285-20-2256(渡辺)他 | E-mail | watanabe★oyama-ct.ac.jp(渡辺)他 |
| 授業の達成目標 | | | |
| 電気・電子・情報技術分野の主要な論文、著書および研究成果等を教材として、その論題の技術背景・歴史的背景および解決方法等について教授しかつ論議することにより、新しい技術の研究開発に対応できる資質を育成する。 | | | |
| 1. 問題意識を持って事に当たり、自らその解決方を調査・検討できること。 | | | |
| 2. 調査内容に基づいた討論・主張等を展開し、要点を整理する能力を身に付ける | | | |
| 3. 調査結果をまとめ、かつ、他に伝達する能力を身に付けていること。 | | | |
| 各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法 | | | |
| 上記事項をテーマに関する教材の輪講等における理解度、発表方法・要領、内容の理論的・技術的背景に関する調査力等の視点から評価する。 | | | |
| 評価方法 | | | |
| テーマに関する教材の輪講等における理解度、発表方法・要領、内容の理論的・技術的背景に関する調査力等の視点から評価する。 | | | |
| 授業内容 | 授業内容に対する自学自習項目 | | 自学自習時間 |
| 各指導教員により異なる。 | | | |
| 自学自習時間合計 | | | |
| キーワード | 輪講、論文、等 | | |
| 教科書 | 各指導教員により異なる。 | | |
| 参考書 | 各指導教員により異なる。 | | |
| 小山高専の教育方針①～⑥との対応 | | ② | |
| 技術者教育プログラムの学習・教育目標 | | | |
| (A) 技術者に必要な基礎知識と応用力を身につける。 | | | |
| (A-1) 科学の基本原則・法則の理解と工学への応用 | | | |
| (D) コミュニケーション能力を身につける。 | | | |
| (D-1) 言語の知識を習得すると同時に、語学力や会話力を身につけること。 | | | |
| (D-2) 研究調査や実験の計画を立て、実施し、結果をまとめ、それを口頭で発表して質疑応答ができること。 | | | |
| (D-3) 実社会の中で体験したことについて、自分の考えをまとめて発表、報告することができること。 | | | |
| JABEE 基準 1 の (1) との関係 | | (b) (c) (f) | |
| カリキュラム中の位置づけ | | | |
| 前年度までの関連科目 | | - | |
| 現学年の関連科目 | | - | |
| 次年度以降の関連科目 | | - | |
| 連絡事項 | | | |
| 予習-事前に教科書を読み、疑問点を明確にする。 | | | |
| 授業-講義内容と黒板をノートに整理し、理解する。疑問点は随時質問する。授業中に与えられた課題を自ら解く。 | | | |
| 復習-参考書の演習や教科書の問題を解いてみる | | | |
| 1. 配属された研究室の指導教官の指導の下で、調査・討論・プレゼンテーション等を行う。 | | | |
| 2. ゼミナールの内容は特別研究を遂行する上で基礎となるものであるから、各分野における理論的・技術的背景を理解すると共に、研究へのアプローチを学ぶこと。外国の文献に親しみ国際感覚を身につけることも大切である。 | | | |
| (メールは★を@に変えて送信してください) | | | |
| シラバス作成年月日 | 平成22年1月31日 | | |